

令和五年九月十一日 宿泊処改修工事完成清めの儀

神 示

環境が 人間を育てる

環境に合うよう 性格・実体を身に付けてゆく

なぜ 神は

家族で「教え」を学び 「真理」で関わる必要を説くのか

「真理」は 自然の摂理

真理のある環境に身を置くことで

人間は 欲心に染まることなく

社会に奉仕する思いを強くしてゆく

戸部の町は 使者供丸斎の人生を 救世へと導き 代神を生んだ環境

この環境には 欲心を抑え 救世心を育む 運命が宿っている

信者は この町に建つ「宿泊処」

その救世の源を知り 忘れてはいけない

なぜ 使者供丸斎の救世心を育んだ環境が

今日は宿泊処と成っているのか

家族で泊まり 気持ちの交流を深める環境として

その運命を活かしている

家族で「教え」を学び 「真理」で実体を高めるほど

人間の心は 明るく 強くなる

この宿泊処の「運命」 環境の力を知って

社会の変化にのまれずに 強く「生きる」心を求めて

出入りを深めてくだされ

代神を生んだ この環境の運命が 信者の心を包み込み 強くする